

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 すきっぷ豊岡		
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日		令和8年2月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 3人
○従業者評価実施期間	令和8年3月1日		令和8年3月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子様の特性に応じた支援と、運動活動(ダンス・スキー等)を通して成功体験を積み重ね、自信や安心感につなげていること。	療育活動については一つの点で終わらせるのではなく、ダンスであれば発表会、スキーであればスキー検定に挑戦する等、明確な目標を持ち取り組んでいます。	今後も療育を形にして発表する機会を大切に、達成感を得られるよう取り組んでいきます。 また、発表会や検定に向けた活動を通して、小さな成功体験を積み重ねながら、自信や安心感につながるよう関わりを大切にしています。
2	保護者様との情報共有、支援内容の発信(通信やHP)またケガや事故等が発生した際の迅速な連絡及び状況の説明	保護者さまとの情報共有や支援内容の発信、ケガや事故時の迅速な連絡・説明を大切にしています。 連絡ノートや電話、LINEなどを活用しながら丁寧な情報共有に努めるとともに、通信やHPを通して日々の様子を分かりやすくお伝えしています。	今後も保護者さまの状況に合わせて、適切な媒体や面談等を通して情報共有を行っていきます。 送迎時は限られた時間の中でのやり取りとなりますが、必要に応じて施設長や児発管より個別にご連絡させていただきます。 また、お子さまの様子がより分かるような通信の発信を継続してまいります。
3	お子様の特性を踏まえた上での活動参加	お子さまの特性やその日の状態に配慮しながら、無理のない形で集団活動に参加できるよう関わっています。 最初は難しい場合でも、少しずつ関わりを広げながら、楽しく過ごせる経験につながるよう支援を行っています。	お子さまの状況に合わせた声掛けや視覚的な提示などを取り入れながら、安心して楽しく活動に参加できる環境づくりを今後も行っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	通所に対する楽しみにつながる関わりについて、さらに工夫が必要	通所中は楽しそうに過ごしている様子が見られる一方で、お子さまの気持ちや背景を十分に把握しきれていない場面がある可能性があります。	先入観にとらわれず、お子さま一人ひとりの背景や気持ちを丁寧に受け止めながら、行き渋り等が見られる場合には意識的に関わり、関係性を築いていきます。
2	子どもの出来ない事に着目してしまいがち	課題解決を重視するあまり、強みや「できること」に着目する視点が十分に持てていない場面があります。	朝の打ち合わせ等で、課題を解決することも大切なことであると踏まえつつ、本人の強みになる「出来ること」等にも着目した話し合いが全員で出来るように、取り組んでいきます。
3	地域との交流機会について、すべての子どもが参加できる機会となっていない	公園外出やスキー支援など、地域の中で活動する機会はあるものの、実施内容や状況により参加が難しい場合があります。	今後は活動内容を工夫し、より多くの子どもが地域の中での経験を得られるよう検討していきます。